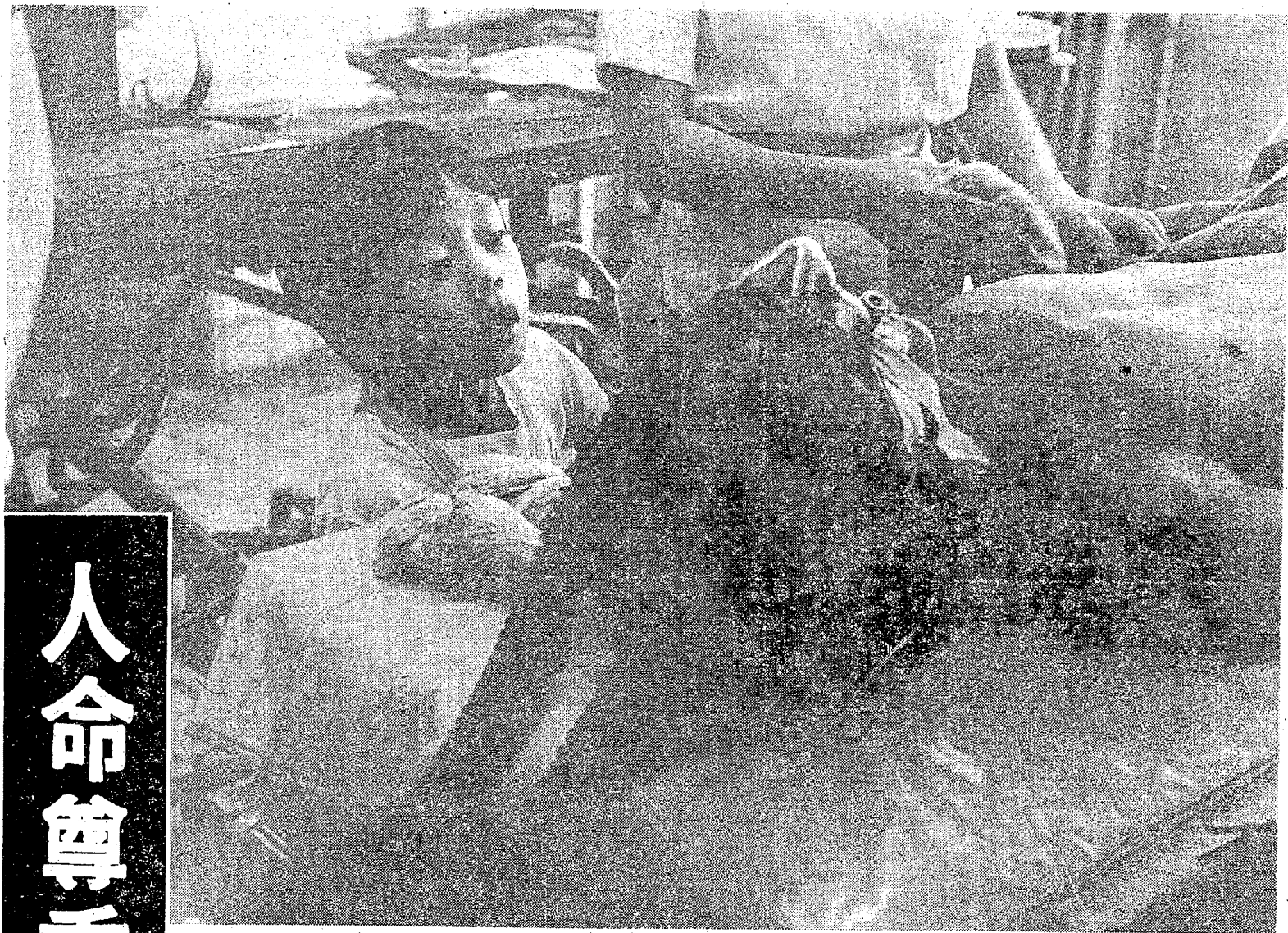




発行所

三池炭鉱労働組合

大牟田市不知火町2

電話 ③3033番
③3034番

編集兼
発行人 山下 開

半年間600円 送料共

三池からも「入選」

熊本県総評主催の
評の主催新聞コンクールで

去月二十日、熊本県総評主催の
「機関紙・職場新聞コンクール」の審査が行われたが、その結果三
池労組からは機関紙「みいけ」が

入選第一位に、職場新聞の「日刊」が、今年の特選第一位とい
みかわが同じく入選第六位、同、職場新聞の部で日刊紙が飛
躍的増大を示したと（参加
坑外（四山）が入選第十一位
に、パンフレット型の「いのち」
の二十六紙中、日刊紙が十一種）
（三川）の特集が二位に、とぞ
だった。「日刊みかわ」がかわれ
たのも、日刊という努力が注目さ
れたものだろう。

資本、またも命を奪う

西村さん（四山鉱採炭工）、落盤の下敷きに
組合、ストライキで抗議

とうに息絶えていた西村さんに、よほど納得できなかったのだろう。孫の松下博之ちゃん（4才）は、「じいちゃん、いつまでも、なし眠つとつと？ 早よう、目をあけね」と、何回も呼びかけていた。そのあどけない顔。

資本の手で奪い命を奪われた人
は、三池労組に所属し、これまで
三本線入りの坑内帽をかぶりなが

に手のほどこしきもなく、やっ
と西村さんの顔だけ掘り出すこと
ができたに過ぎず、仲間の人びと
が「西村さん、しっかりして」と
けんめいにはげますのに、は
じめこそうなずいていたものの、
四時間ストライキで抗議した。

七月二十八日、富浦鉱の採炭工「黒田英一さん（34才、新労組員）の命を、八月一日、三川
鉱の掘進工「奥田富雄さん（47才、三井建設下請・三池組の組夫）の命を奪ったばかりの三井
は、去月二十四日、またしても一人の労働者の命を奪った。まさに虐殺というほかなく、三池労
組は全組合員と家族の怒りを結集し、二十四時間ストライキに突入して抗議すると共に、三井鉱山に対
し強く「人命第一主義に徹して坑内保安を確立」することを要求した。

ら闘い続けてきた、四山鉱（加藤 数分後には早や何の反応も示さな
糾二鉱長）の採炭工「西村武夫
さん（51才、荒尾市宮内村宅三十
棟）だった。三池炭鉱では、今年
は何と六人も労働者の命が奪われ
たことになり、明らかに、人命を
かえり見ず、依然として生産第一
主義の合理化政策を押し通してゆ
くの目につく、資本による虐殺
にほかならない。

直接の原因は、八月二十四日午
前十一時三十分ごろ、四山鉱の坑
底上層三十五号下段東一井排気道
で起きた落盤で、西村さんはその
下敷になったのである。

その日西村さんは同僚に、数
人の三池労組員仲間といっしょに
その先山として配役され、鉄柱の
回収作業に当たっていたこの難にあ
ったのだ。別項記事にある
ように、作業は保安無視で押しつ
けられたものだった。

二次、三次と相次ぐ落盤のため
に手のほどこしきもなく、やっ
と西村さんの顔だけ掘り出すこと
ができたに過ぎず、仲間の人びと
が「西村さん、しっかりして」と
けんめいにはげますのに、は
じめこそうなずいていたものの、
四時間ストライキで抗議した。

三池労組は、翌二十五日、二十
四時間ストライキで抗議した。

大之浦鉱に閉山提案

組合は、反対闘争に立つ

情。

(1) 被害に
対する
住民感

大之浦炭 きたる十一月二十九日をもって
鉱の会社側 全員解雇の方針と。
は、去月十 貝島大之浦労組は、「会社の
八日、貝島 説明ばかりでは、なっとくがい
大之浦労組 かない。閉山は俺たちの死活問
（炭労加 題であり、反対だ。したがって
盟、矢野頭 今後は、組合独自で長期操業を
組合員）に 決意してでも行動を起こす」と
対し、次の 会社側に通告した。

現地対策委の決意

貝島大之浦労組の閉山反対闘
争の指導に当たる、炭労現地対
策委員会、は、大之浦炭鉱が良
質の原料炭産出のヤマであるこ
とに注目し、その操業を確保す
るためにもただちに中央・地方
で行動に立ちあがる計画を表明
した。（閉山合理化の嵐
のなかに立つ大之浦炭）

(2) 坑内湧水によるコストアッ
プ。

(3) 収支面における赤字累積。

(4) 坑外施設の限界。

会社側は「あらゆる努力をし
てきたが、万策つくた」とし、

「第五次石炭政策」がすべり出したばかりの今年、また筑
豊の二つのヤマが姿を消そうとしている。去る昭和四十一年
貝島炭鉱から分離、第二会社として生き延びてきた大之浦炭
鉱（飯手郡宮田町大字磯光。労働者約六百人）がそれである。

